

「ワニがまわる タムラサトル」記録集

Archives of "Spinning Crocodiles, Tamura Satoru"

国立新美術館

The National Art Center, Tokyo

ワニがまわる タムラサトル

国立新美術館 企画展示室 1E

2022年6月15日(水)→7月18日(月・祝)

主催
国立新美術館

学芸担当
吉村麗(国立新美術館特定研究員)
宮島綾子(国立新美術館主任研究員)
本橋弥生(前国立新美術館主任研究員)

ワークショップ担当
吉澤菜摘(国立新美術館主任研究員)
国立新美術館教育普及室 | 真住貴子、山際真奈、今井祥子、杉本雅晃

広報担当
井口寧奈(国立新美術館広報・国際室)
国立新美術館広報・国際室 | 石川葉月、オエットリ愛子、本多瑠美

イラストレーション&デザイン
多田涼士

ビデオグラフィー
丸尾隆一

翻訳
渡辺卓幹、渡辺レイチェル

会場施工
東京スタデオ

展示施工
TRNK

展示協力
MAKI Gallery、TEZUKAYAMA GALLERY、日本大学芸術学部、宇都宮メディア・アーツ専門学校

Spinning Crocodiles, Tamura Satoru

The National Art Center, Tokyo / Special Exhibition Gallery 1E
June 15 (Wed.) – July 18 (Mon.), 2022

Organized by:
The National Art Center, Tokyo

Curators
YOSHIMURA Rei / Curator, The National Art Center, Tokyo
MIYAJIMA Ayako / Curator, The National Art Center, Tokyo
MOTOHASHI Yayoi / Former Curator, The National Art Center, Tokyo

Public Program
YOSHIZAWA Natsumi / Educator, The National Art Center, Tokyo
Section of Education & Public Programs | MASUMI Takako, YAMAGIWA Mana, IMAI Shoko, SUGIMOTO Masaaki

Public Relations
IGUCHI Neina / Officer, The National Art Center, Tokyo
Office of Communications and International Affairs | ISHIKAWA Hazuki, OETTLI Aiko, HONDA Rumi

Illustration & Graphic design
TADA Ryoji

Videography
MARUO Ryuichi

Translators
WATANABE Takayoshi, WATANABE Rachel

Construction
Tokyo Studio Co., Ltd.

Technical supervisor
TRNK

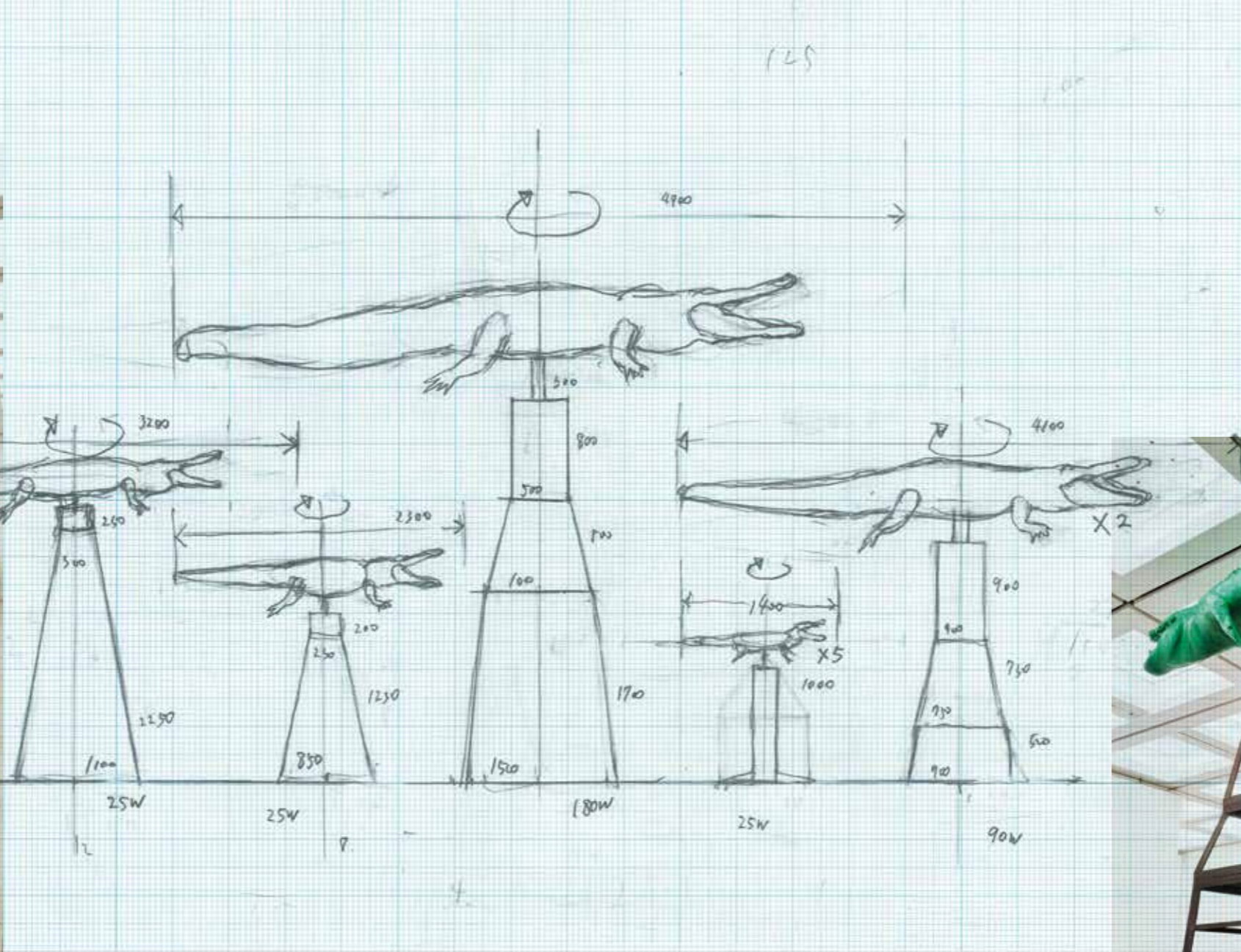
Exhibition cooperation
MAKI Gallery; TEZUKAYAMA GALLERY; Nihon University College of Art; Utsunomiya Media-Arts College



令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト 補助対象事業
(独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁)























《スピנקロコダイル・ガーデン》
Spin Crocodile Garden
1994-2022年



《スピנקロコダイル V #1》
Spin Crocodile V #1
1997年
1400×1400×1200 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど

《スピנקロコダイル V #2》
Spin Crocodile V #2
1997年
1400×1400×1000 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど



《スピנקロコダイル II》
Spin Crocodile II
1995年
4200×4200×2900 mm
スチロール、ウレタン、鉄、アルミ、モーター、プロペラなど



《スピנקロコダイル III》
Spin Crocodile III
1997年
4100×4100×3500 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど



《スピנקロコダイル》
Spin Crocodile
1994年
4800×4800×4700 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど

作品データ | List of works



《スピクロコダイル VI》
Spin Crocodile VI
1998年(2012年レイアウト変更)
9800×200×1300 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど



《スピクロコダイル VII》
Spin Crocodile VII
2009年
3100×3100×2200 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど



《スピクロコダイル for S.W.》
Spin Crocodile for S.W.
1999年
2300×2300×1800 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーターなど



《スピクロコダイル 吉田》ほか999体
Spin Crocodile Yoshida (and 999 others)
2022年
各々約250×250×300 mm
ペーパークレイ、アルミ、モーター



《スピクロコダイル W.S.》(ワークショップ参加者による制作)
Spin Crocodile W.S.
2022年
スチロール、ペーパークレイ、アルミ、モーター
制作者=ワークショップ「まわるワニをつくる」参加者、宇都宮メディア・アーツ専門学校2年生、日本大学芸術学部デザイン学科有志、国立新美術館有志ほか



《スピクロコダイル VIII》
Spin Crocodile VIII
2022年
13000×13000×2400 mm
スチロール、ウレタン、鉄、モーター、など



ショートギャラリートーク
「タムラさんに聞いてみよう！」

日時
2022年6月25日(土)／7月2日(土) 11:00～、13:00～、15:00～、17:00～(各回20分程度、全4回)

会場
国立新美術館 企画展示室1E

来場者が気軽に参加でき、作家とコミュニケーションがとれるイベントとして、短い時間のギャラリートークを1日に4回、2日間開催しました。質問コーナーでは、子どもから大人まで幅広い年齢の方から、多彩な質問が飛び交いました。

Short Gallery Talk
“Let’s ask to Tamura san!”

Dates
June 25 (Sat.); July 2 (Sat.), 2022 11:00-, 13:00-, 15:00-, 17:00-

Venue
The National Art Center, Tokyo / Special Exhibition Gallery 1E

As an event where visitors could easily participate and communicate with the artist, short gallery talks were held four times a day for two days. The question-and-answer session attracted a wide variety of questions from people of all ages, from children to adults.

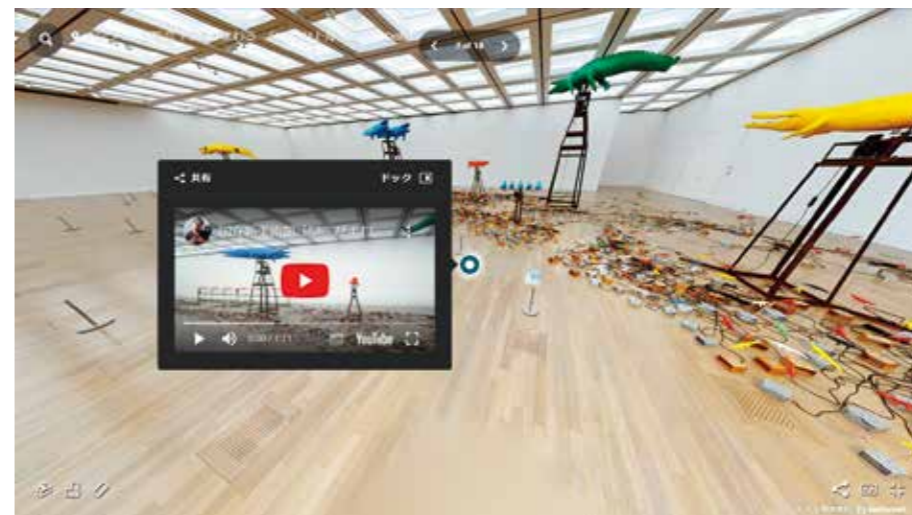


オンライン展覧会
「ワニがまわる タムラサトル」 in 3D

会期終了後も展覧会を楽しめるコンテンツとして、展示室を360°全方向カメラで撮影した3D映像を制作しました。

Online Exhibition
“Spinning Crocodiles, Tamura Satoru” in 3D

As content for enjoying the exhibition even after the exhibition is over, a 3D video of the gallery was produced using a 360° omni-directional camera.



バーチャル日本博

日本博のコンテンツを仮想空間で楽しむことができる「バーチャル日本博」とのコラボ企画を開催しました。「バーチャル日本博」内の各エリアに出現したワニをクリックすると、《スピニングクロコダイル for S.W.》など、作品の精巧な3DCGデータを見ることができます。

Spinning Crocodiles in the Metaverse: The Japan Cultural Expo VIRTUAL PLATFORM Meets Satoru Tamura’s Art

A collaborative project was organized with the Japan Cultural Expo VIRTUAL PLATFORM, which allows visitors to enjoy the contents of the Japan Cultural Expo in a virtual space. By clicking on the crocodiles that appeared in the various areas of the VIRTUAL PLATFORM, visitors could view elaborate 3DCG model of Satoru Tamura’s sculptures such as *Spin Crocodile for S.W.*





「ワニがまわる」の裏側について

国立新美術館の企画展示室で開催されたタムラサトルの「ワニがまわる」展では、会場を埋めつくす1000匹ものワニがまわることで、ニュースでも話題になっていた。さらに12メートルもの超巨大なワニもゆっくりとまわっている。

ワニがまわる理由を聞かないでほしい、というけれど、見る側からはやっぱり気になって仕方がないので、そのことについて書いてみたいと思う。

同展の解説文でも明かされているが、ワニをまわすきっかけは大学時代の課題作品からだったという。「電気を使った芸術装置」というテーマで、タムラサトルに突然ワニがやってきた。彼はそれ以来ワニをまわす作品を作り続けている。

しかし、ワニを思いついたのと、まわすのは別次元の話だ。電気を使うのが苦手だったから単純にまわしたというが、そのために必要なモーターがすぐに入手できたから、そういう発想になったのではないか。そこにツクバの特殊事情がある。筆者も筑波大学芸術専門学群出身なので、そのあたりの背景について説明していきたいと思う。

東京教育大学が筑波へ移転したとき「総合造形」という新課程が生まれた。それを主導したのが実験工房から大阪万博などで活躍した山口勝弘で、戦後のアート&テクノロジーを代表する人物だ。また金属彫刻で注目される篠田守男、河口龍夫、三田村峻右の教授陣でスタートしている。

「総合造形」では、メディア時代に対応した新課程カリキュラムがあった。インスタレーション、パフォーマンス、ビデオアート、ホログラフィなど、現代アートの新カテゴリーを大学カリキュラムに取り入れたのは筑波大学が最も早く、新設大学だから実現したことである。そのために文部省(当時)の新分野への理解が追いつかず、それぞれ「展示造形」「身体造形」「電子画像」「立体画像」という和文名に変換して、かろうじて認可されたというエピソードを持つ。この環境のなかでタムラはキネティック・アートを自然に身につけてゆくことになる。だから、普通の美術大学では、モーターがその辺に転がっているわけがないが、当時のツクバではそれは別段めずらしいことではなかった。

数年前に横浜のBankARTで開催された「心ある機械たち again」(2019年12月28日~2020年2月2日、BankART Station + BankART SILK)では、当然のことながらタムラサトル作品も出展されていた。タムラが作り出す“心ある機械”は、篠田守男譲りの機械の美学に関心を示した結果であると考えるのは、違っているだろうか。

ツクバ系のもうひとつの脈流として、第一期生の石原恒和(ポケモン)、メディアアーティストの岩井俊雄(ウゴウゴルーガ)、森脇裕之(小林幸子電飾衣裳)そして明和電機(オタマトーン)など、エンターテインメントへの進出にも注目すべき点がある。タムラの持っているシニカルなユーモアセンスも、この流れの影響下にあったのではないと思われる。土佐信道は、旧来の美術館制度のなかでアートをやることのカウンター行為が、明和電機の原点と口にするが、1980年代から1990年代にかけては各種の問題点が表面化して、美術館自体も変革期にあった。しかし、われわれはエンターテインメントに関わったとたんに視聴率、動員数、売り上げなどの消費文化に翻弄され、アートとエンターテインメントのあいだを彷徨うことになってしまった。タムラサトルの場合は、現代アートのなかでアートの本質を問うコンセプチュアルな側面をつよく通すことで評価を不動のものにしてきた。

今回の展覧会で彼が、自分の出発点として原点回帰を定めたところを、たいへんうれしく思った。学生時代の課題作品への個人的な想いという点では、非常に共感できるからだ。学生時代のやたら空回りする情熱は、それはそれで悪くないと思う。展覧会会場でお会いしたとき「学生時代から、あいも変わらずワニをまわしていますよ」と自嘲気味に語ったけれど、むしろそれは、いいことなのである。

2022年9月

多摩美術大学情報デザイン学科教授 森脇裕之



「ワニがまわる タムラサトル」記録集

執筆(寄稿)

森脇裕之

編集

国立新美術館(吉村麗、宮島綾子)

デザイン

三木俊一(文京図案室)

撮影(p.6-7, 27を除く)

金田幸三

印刷

光村印刷

発行日

2022年9月30日

発行

国立新美術館

Archives of “Spinning Crocodiles, Tamura Satoru”

Essay

MORIWAKI Hiroyuki

Editors

The National Art Center, Tokyo (YOSHIMURA Rei, MIYAJIMA Ayako)

Graphic Design

MIKI Shun-ichi (Bunkyo-zuan-shitsu)

Photographer (except p.6-7, 27)

KANEDA Kozo

Printing

MITSUMURA PRINTING Co., Ltd.

Published

September 30, 2022

Publisher

The National Art Center, Tokyo